

日本薬学会 第130回年会（岡山）シンポジウム

「次世代高性能触媒の創製をめざす」

オーガナイザー：阿部 郁朗（東大院薬）
赤井 周司（静岡県大薬）

日時：平成22年3月28日（日） 9時～12時
場所：岡山大学・津島キャンパス（A21会場）

20世紀後半の有機合成化学の飛躍的な発展は、高機能や高活性を有する触媒の発明に因るところが大きい。中でも種々の金属元素の機能開拓と新規リガンドの創製が、高選択的合成・不斉合成・新規な結合形成などの新しい合成手法を次々と生み出した。これによって、複雑な分子構造の構築や、より効率的な合成を可能にし、医農薬産業の発展に貢献してきた。21世紀に入って、限りある資源と環境保全に配慮したモノづくりが最重要課題となり、金属を含まない有機低分子触媒や、酵素などの天然高分子触媒の利用にも拍車がかかった。それぞれの触媒研究は独自に大きな進展を見せたが、未解決の課題も多い。社会的要請に応えうる「次世代を担う革新的触媒」の開発には、分野間の協働・融合による斬新なアイデアの創出と合目的な研究推進が必要である。本シンポジウムでは、各触媒化学分野から7名のシンポジストが最新の研究成果を紹介する。幅広い世代の聴衆と共に、日本発の次世代高性能触媒の創製を目指して討論したい。

【プログラム】

酵素－金属複合触媒反応系の創製：多段階ワンポット合成

（静岡県大薬） 赤井 周司

酵素機能の制御と超天然型新規生体触媒の創製

（東大院薬） 阿部 郁朗

抗体酵素の新展開：ホロ酵素型抗体の分子設計

（阪府大院理） 藤井 郁雄

人工酵素を創る戦略：エナミン機構に基づく反応を加速する触媒の開発

（京大化研・岐阜大工） 田中富士枝

新規な水素結合供与性有機触媒の創製

（京大院薬） 竹本 佳司

動的分子認識に基づくポリオール類の位置選択的官能基化

（京大化研） 川端 猛夫

医薬候補化合物の実用的触媒的不斉合成

（東大院薬） 柴崎 正勝